赤外線治療器

cerapia 3300

INFRARED RAY APPARATUS UNIT

セラピア3300

取 扱 説 明 書

NIHON MEDIX

重要なお知らせ

このたびは、弊社製品をお求めいただき誠にありがとうございます。
ご使用に当たりましては、本書をよくお読みのうえ正しくお使いください。

- 本製品を取り扱う場合は、必ずこの取扱説明書および添付文書に従ってください。
  製品本来の使用方法、および本書に記載した方法以外の取り扱いによって、ケガおよび損害が発生した場合は、弊社およびその販売会社に責任はないものとさせていただきます。

- 装置の設置後は、取扱説明書および添付文書をいつでもお読みいただけるよう、機器の操作に支障のない場所に保管してください。

- 本製品を取り扱う場合の使用者および患者さんの状態、使用者周辺の状況のすべては想定しきれません。したがって、本書に記載されている注意事項や機器本体に表示してある注意事項は、すべてを含んでいるわけではありません。

- 本書は版権を有し、その権利は留保されています。

- 本書の内容の一部または全部を無断で転載することは禁止されています。

- 本書の内容に関しては、将来予告なしに変更することがあります。

- 本書に使用している図は、一部を省略、または抽象化しているものがあります。

- 本書の内容については万全を期していますが、万一不審な点や誤り、記載もれなどでお気づきの点がございましたら、弊社までご連絡ください。

- 製品仕様は、予告なしに変更する場合がありますのでご了承ください。

目次

安全・使用上の注意 3
■警告用語の種類と意味 3
1．開梱までの輸送、保管に関する注意 3
2．設置および設置場所に関する注意 4
3．禁忌・禁止事項 6
4．使用前の注意 7
5．使用中の注意 8
6．使用後の注意 9
7．故障、保守、点検時の注意 9

各部の名称とはたらき 11
■本体 11
■操作パネル 12

使用前の準備 13
1．電源コードの接続 13

使用方法 14
1．電源をON(ー)にする 14
2．治療時間の設定 14
3．ヒータユニットの調整 14
4．治療の開始 15
5．治療の終了 15
6．同じ条件で治療をする 15

その他の設定 16
1．終了音の設定 16
2．音量の調整 16

日常の保守と点検 17
1．日常点検 17
2．保守点検（日本理学療法機器工業会自主基準による） 17
3．装置の清掃 20
4．ヒューズの交換 20

故障かなと思ったら 21

主な仕様 22
■付属品 22

保証および修理について 23

補足事項 24
■廃棄について 24

安全･使用上の注意

必ずお読みください

安全に正しくお使いいただくために

個々に示した注意事項は、本装置を正しくお使いいただき、使用される方および患者さんへの危害と、本装置や財産への損傷を未然に防止するものです。

■警告用語の種類と意味

■ 危害や損害の切迫の程度を表示するために、誤ってご使用になったときに生じると想定される内容を 危険 警告 注意 に分けて表記しています。
いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ずお守りください。

危険	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じる可能性が想定される内容を示します。
警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。
注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性や物的損害のみの発生が想定される内容を示します。
注　記	傷害や故障にはつながりませんが、注意を促したり、強調したい情報であることを示しています。

■ 危害や損害の切迫の程度を明示するために、誤ってご使用になったときに生じると想定される内容を ●（強制）、⃠（禁止）、△（注意）に分けて表記しています。

●	記号の中に具体的な強制事項を示しています。	例	特定しない一般的な行為を強制します。
⃠	記号の中に具体的な禁止事項を示しています。	例	特定しない一般的な行為を禁止します。
△	記号の中に具体的な注意事項を示しています。	例	特定の条件下で高温による障害の可能性を注意します。

次の注意事項を熟読され、機器を正しくお使いください。

1. 開梱までの輸送、保管に関する注意

警告

■装置を落としたり衝撃を与えない。

ヒータ管が破損し使用不能になります。

■周囲温度：－20～60℃、相対湿度：10～95%（結露なきこと）の環境で保管する。

装置が故障したり使用不能になる恐れがあります。

2. 設置および設置場所に関する注意

警告

■付属の保護接地線付きの電源コードを使用する。

感電事故防止のため、必ず付属の電源コードをご使用ください。
接地されていない状態で使用すると感電事故が起きる恐れがあります。

■ヒューズは指定のものを使用する。

ヒューズを交換するときは、電源スイッチを切り、電源コードをコンセントから抜いて、必ず指定のものと交換してください。
異なったものを使用すると、火災・感電の恐れがあります。

■表示されている電源以外の電圧で使用しない。

火災や機器破損の恐れがあります。必ず商用100V50/60Hzの電源をご使用ください。
テーブルタップなどによるタコ足配線は、ノイズなどの発生により、異常な現象や、火災が起きる恐れがありますので絶対におやめください。

■電源コードに傷をつけたり加工をしない。また破損した電源コードを使用しない。

破損したり、加工した電源コードを使用すると、火災・感電の恐れがあります。

■電源コードを無理に曲げたりねじったりしない。

電源コードを無理に曲げたり、ねじったまま使用すると、火災・感電の恐れがあります。

■装置を落としたり、外観などを破損した場合は使用しない。

装置を落としたり、外観などが破損した場合は、そのまま使用せずに、弊社支店・営業所またはお買い上げ店にご連絡ください。
そのまま使用すると、ケガや火災・感電の恐れがあります。

■不安定な場所で使用しない。

ぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定な場所で装置を使用すると、落下による故障やケガをする恐れがあります。

■装置内部に物や水などを入れない。

装置内部に水や物を入れると、火災・感電の恐れがあります。万一異物が入った場合は、そのまま使用せずに、弊社支店・営業所またはお買い上げ店にご連絡ください。

注意

■装置を移動する際は、必ず電源プラグをコンセントから抜く。

コードが傷ついたり火災・感電の原因になります。

■装置を移動する際は、極力振動させない。

装置が故障したり使用不能になる原因になります。

■安定した床に設置し、壁などから背面を5cm以上離して使用する。

装置が故障したり使用不能になる原因になります。

■布で覆ったりしない。

装置が故障したり使用不能になる原因になります。

■次のような場所では使用しない。

装置が故障したり使用不能になる原因になります。

- 電源スイッチの操作を妨げる恐れのある場所。
- 屋外や、水のかかる恐れのある場所。
- 温度,湿度、直射日光、ほこり、塩分、硫黄分等を多く含んだ空気等による悪影響のある場所。
- 傾斜、振動、衝撃のある不安定な場所。
- 化学薬品の影響や、ガス発生の恐れのある場所。
- 電磁波の発生するマイクロ波治療器などからの直接照射を受けたり、磁気の影響を受けたりする場所。
- 火気のそば。

樹脂の性質上、紫外線による影響で前面カバーが変色する可能性があります。退色を防ぐため紫外線の影響が少ない場所で使用してください。

■キャスタによる床の汚れが気になる場合は、床を保護する。

キャスタ接触部に汚れが付着する可能性があります。床の汚れが気になる場合は、床を保護した上に設置してください。

3. 禁忌・禁止事項

⚠警告

■ヒータ照射部を直接目に向けない。

ヒータ照射部を覗いたり、直接目に向けたりしないでください。目の傷害をまねく恐れがあります。

■次の症状を示す人、または診断を受けた人への使用はしない。

・糖尿病などによる高度な末梢循環障害による知覚障害者、温度感知喪失者、酒気を帯びた人
【知覚障害や温知覚鈍麻があると、温度感知ができず火傷などを起こす恐れがあります。】
・循環血流量増大によって悪化しうる状態の患者
【電気刺激による血流量増大が、症状を悪化させる恐れがあります。】
・その他、医師が不適当とみなした患者

■次の人は介護者なしで使用しない。

・麻痺のある人、12歳以下の子供、意思表示ができない人等
【患者さんと施術者の間で意思のの疎通ができないと、患者さんの状態を的確に判断できず過量な刺激を与えてしまう恐れがあります。】
・精神機能障害の患者
【治療中に問題が生じてもそれを治療者へ伝えられない、または対象者が気付かない可能性があり、また異常感覚等で温度の感知ができず、正確な応答ができない等により、火傷などを起こす恐れがあります。】

■次の部位、領域、状態での使用はしない。

・目への赤外線照射、および患者以外でもヒータ照射部を直接目に向けないこと
【長時間、過度の赤外線が目に入ると、瞳孔縮小されないため角膜熱傷、水晶体、網膜の損傷を起こし白内障が発生する恐れがあり、また繰返しの赤外線照射により、早期老眼、白点の出現の恐れがあります。】
・急性損傷や急性炎症のある部位
【開放創や表皮の損傷部位は健常部位よりも電流が流れやすく、感覚障害を伴っている場合、過量の電流が流れる恐れがあります。】
・血栓性静脈炎の領域の近く
【血管拡張と循環速度の上昇が、血栓や血餅を遊離し心臓や脳などの血管に移動させる恐れがあります。】
・悪性腫瘍組織又はその周辺
【血流の増大による転移を促進する恐れがあります。】
・感覚が損なわれている領域
【温度の感知ができず火傷などを起こす恐れがあります。】
・最近出血したか又は出血の可能性がある領域
【血管拡張作用により、出血を引き起こす恐れがあります。】

4. 使用前の注意

警告

■治療時間･量は必ず医師や専門職の指導で行う。

必ず医師や専門の方々の指示の上で、治療の是非、治療時間･量を確認してご使用ください。

■他の目的での使用や併用はしない。

本機は赤外線治療器です。他の目的での使用や併用はしないでください。

■次の医療用電子機器との同時使用はしない。

機器に誤動作をまねく恐れがあります。

- 超短波治療器、短波治療器、マイクロ波治療器、電気メスなどの強力な電磁波を放出する装置、強力な磁力線を放出する装置、又はＸ線を放出する装置との近接した操作(例えば、1m程の距離)や直接照射は、機器の出力を不安定にすることがあります。
- 植込み形電子装置(例えば、ペースメーカ)を装着した患者に、使用前に専門医の医学的知見が得られない場合には、適用しないでください。
- 心電計などの装着型医用電子機器の使用時。

警告

■以下の場合は医師の判断に従うこと。

・膠原病　・ポルフィリン症　・光線過敏症　・心臓疾患
・高熱疾患　・浮腫　・皮膚疾患および皮膚過敏症
・医薬品服用中　・妊婦　・高齢者　・体温調節ができない患者
・感染症の疑いのある患者　・局所性刺激剤を適用した領域
・その他体に異常を感じている人　・病名などがはっきりしない場合
・重度の局所循環障害を持つ患者の当該患部への適用は、専門医の医学的知見が必要になります。

■その他

- 使い捨てカイロや金属類(ネックレス、ベルト、時計、メガネ、イヤリングなど)は、体から外してください。
- 磁気の影響を受ける場所では使用しないでください。
- ヒータユニットは丁寧に扱ってください。
  ヒータユニットを乱暴に扱うとヒータの特性に悪影響をもたらす恐れがあります。

■他の機器との併用はしない。

他の機器との併用は、人への傷害や機器故障の恐れがあるのでしないでください。

注意

■使用前には装置が正確に作動することを確認する。

スイッチの作動・点検を行い、装置が正常に作動するかを確認してください。

■電源コードが確実に接続されているか確認する。

- コンセントと電源プラグの接続の具合、ほこり、湿気、発熱の有無、また電源コードのねじれ、劣化、断線の有無を確認・点検してください。
- ヒータユニットに電源コードを掛けたり、接触した状態では使用しないでください。電源コードが溶融し漏電などの原因となります。

■落雷の可能性がある場合は、機器を使用しない。

雷の発生時は、落雷により感電や誤動作、故障の可能性があるため、使用しないでください。また、できるだけ雷が発生する前に機器から電源プラグを抜いてください。

5. 使用中の注意

警告

■患者さんや装置に異常が見られた場合、そのまま使用しない。

患者さんが不快に感じたり気分が悪くなった場合や、装置に異常が見られた時は、患者さんに安全な状態で直ちに装置の作動を止める（支柱裏面の電源スイッチを切る）など、適切な処置を行ってください。

注意

■患者さんおよび装置全般に異常のないことを絶えず監視する。

- 患者さんに疼痛やしびれ、その他の症状の増悪、気分不快等の異常がないことを絶えず注意してください。
- タイマー動作、終了音、スタート／ストップスイッチ動作、関節動作等装置全般の動作状態に注意してください。

■患者さんが機器に触れないよう監視する。

本装置は医家向け機器であり、医療関係者以外は触れないでください。特に、患者さんが装置のスイッチ、ヒータ等に触れないように注意してください。誤動作などの原因となります。

■ヒータユニットに触れない。

- ヒータ部は高温になりますので、操作時には特に注意してください。
- 両サイドの把手でヒータ部の角度調整をしてください。

■取扱上の注意をよく熟知し正しく使用する。また熟練者以外は装置を使用しない。

- 医療機器の使用・保守管理責任は、使用者側（病院・診療所など）にあります。
- 取扱者および管理者は、必ず本取扱説明書をよく読んで正しくお使いください。

6. 使用後の注意

注意

■コード類の取り外しの際は、無理に引き抜かない。

コード類の取り外しに際しては、コードを持って引き抜くなど、無理な力をかけないでください。断線などの原因となります。

■機器などは次回の使用に支障のないように必ず清浄にしておく。

使用後は機器などを清浄にし、次回の使用に備えてください。

7. 故障、保守、点検時の注意

警告

■装置に異常が見られる場合、そのまま使用しない。

万一、煙が出ていたり変な臭いがする場合、またはスイッチ類が操作不能になったとき、そのまま使用すると火災・感電の恐れがあります。
直ちに使用を停止し、電源を切り、電源コードをコンセントから抜き、弊社支店・営業所またはお買い上げ店にご連絡ください。
修理が完了するまで「故障・使用不可」等の適切な表示を行い、装置に触れないでください。

■修理技術者以外による修理や改造に類似する行為や依頼は絶対にしない。

事故、故障、異常動作が起こる恐れがあります。絶対にしないでください。
弊社の修理技術者または医療機器修理業者、臨床工学技士以外が修理または再調整をして発生した事故および故障に関しては、その責任は一切負いません。

■本装置内部を絶対に開けない。

内部には、電圧の高い部分があります。手を触れたりすると、感電事故や機器が故障する恐れがありますので絶対に開けないでください。

注意

■清掃・手入れの際に、操作部には絶対に水をかけない。

機器に損傷を与える原因になります。

■清掃・手入れの際に、ベンジンやシンナー、アルコール、磨き粉、たわしなどは使用しない。

塗装の剥がれや傷の原因になります。

■装置を2週間以上使用しなかった場合は、使用前に必ず点検を行う。

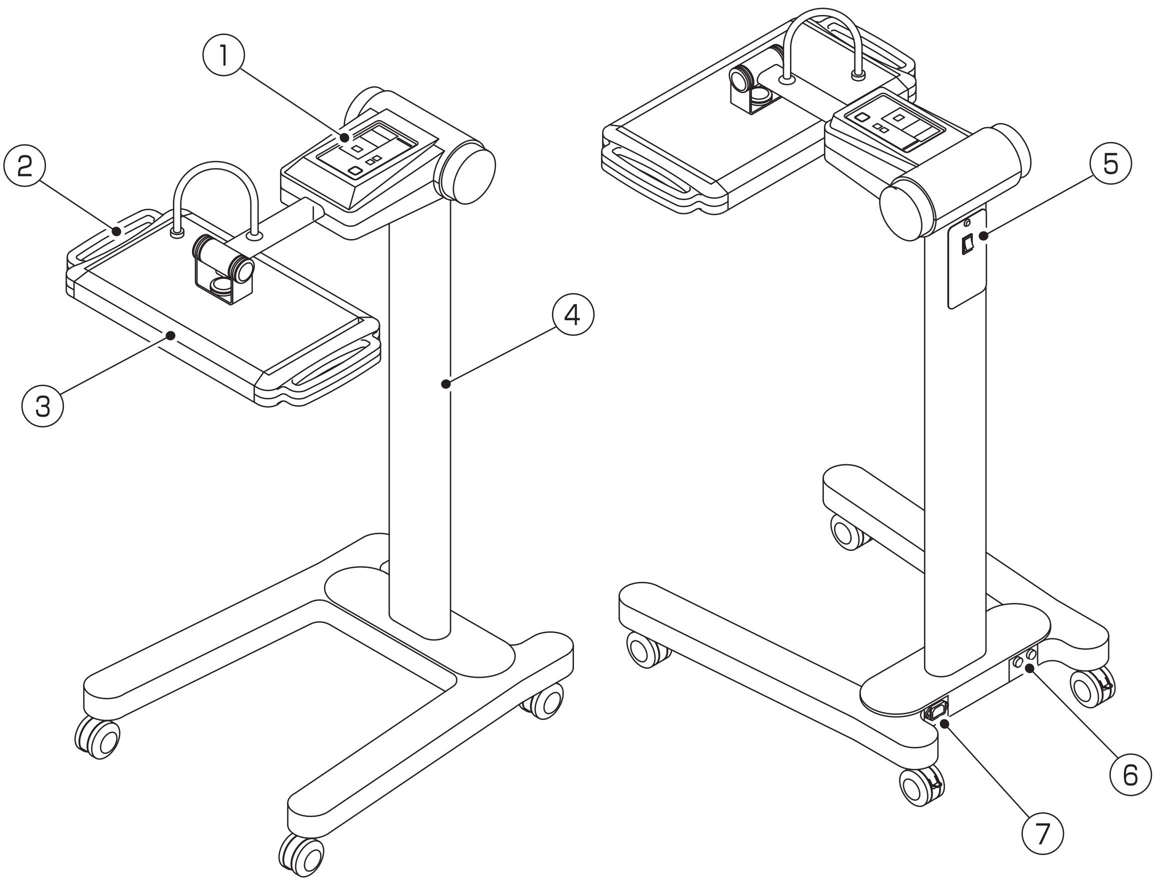
使用前に必ず装置が正常かつ安全に作動することを確認してください。

■年１回、保守点検を行う。

本製品は特定保守管理医療機器であるため、年に１回は保守点検を行ってください。
保守点検が実施できない場合は、点検日の2ヶ月前に弊社へご依頼ください。(有償)
耐用期間８年を超える場合は、治療器の安全性・効能維持の可能性を判定し、以後の使用・点検実施の可否について確認しますので、弊社支店・営業所またはお買い上げ店にご連絡ください。

各部の名称とはたらき

■本体



①操作パネル.........................治療時間設定スイッチ、スタート／ストップスイッチ、加温状態や設定時間の表示部があります。
②ヒータ把手.........................ヒータを角度調整する場合に使用します。
③ヒータユニット.................ヒータガードとカーボンランプヒータがあります。
④支柱....................................支柱の裏側に電源スイッチがあります。
⑤電源スイッチ.....................電源をＯＮ／ＯＦＦします。
⑥電源ヒューズホルダ.........電源用のヒューズが2本入っています。
⑦電源インレット.................付属の電源コードを接続します。

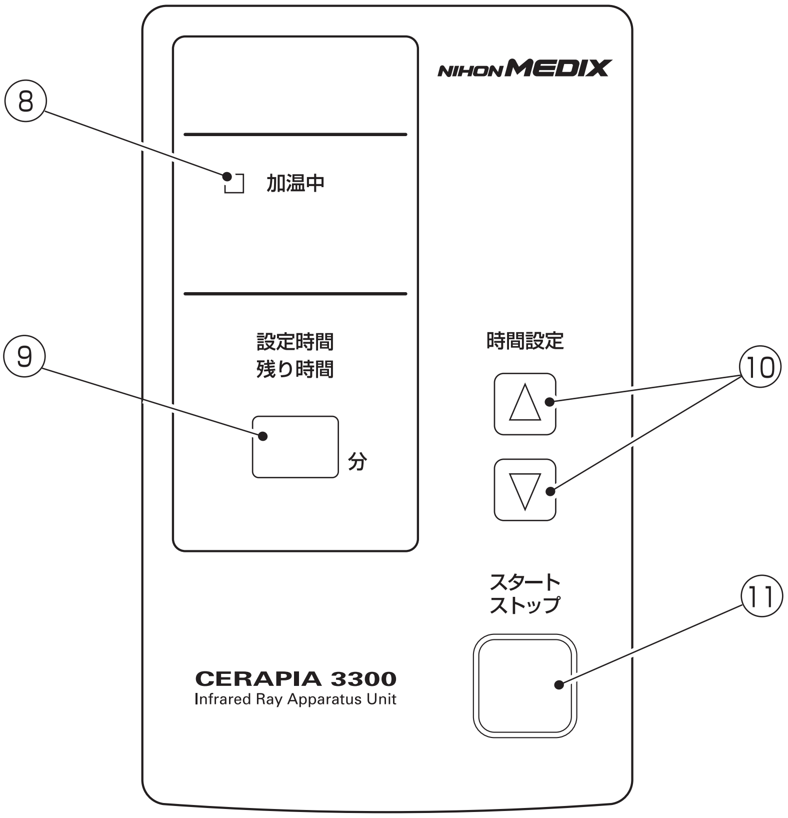
警告

- 装置を押したり、寄り掛かったりしないでください。転倒によるケガや装置が故障する恐れがあります。

注意

- 本体を移動する際は、機器が倒れないように十分注意して移動してください。
- 関節部や可動部に手や指を挟まないように注意してください。

■操作パネル



⑧**加温表示**..ヒータが加温状態の場合に点灯表示します。
⑨**治療時間表示**.....................................治療時間および残時間を表示します。治療中は残時間を点滅表示します。
⑩**治療時間設定スイッチ**.......................治療時間を1分単位で設定できます。設定範囲は1～30分で、△キーで治療時間が増加し、▽キーで減少します。
⑪**スタート／ストップスイッチ**...........治療を開始する場合または、治療を中止する場合に使用します。

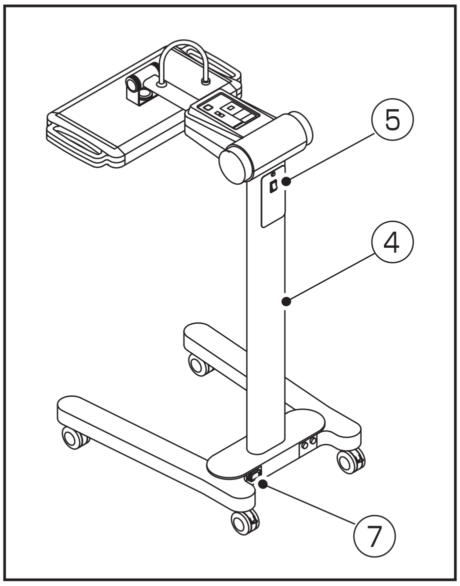
使用前の準備

1. 電源コードの接続

1）支柱④の裏側の電源スイッチ⑤がOFF(○)であることを確認します。

2）電源コードの電源プラグを電源インレット⑦に接続します。

3）もう一方の電源プラグを電源コンセントに接続します。



⚠ 注意

- プラグを取り付ける際は、必ず根本まで差し込んでください。中途半端な差し込みは誤動作の原因になります。
- 電源コードを踏んだり引っ張ったりしないでください。

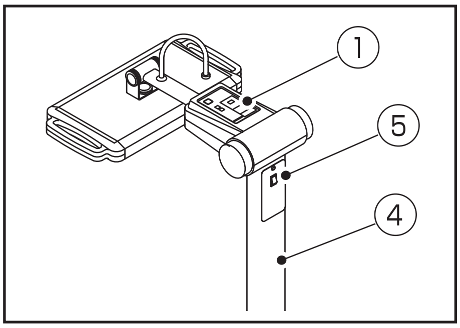
使用方法

治療を行う際は、基本的に以下の手順に従って操作を行います。

1. 電源をON(−)にする

1）支柱④の裏側の電源スイッチ⑤をON(−)にします。

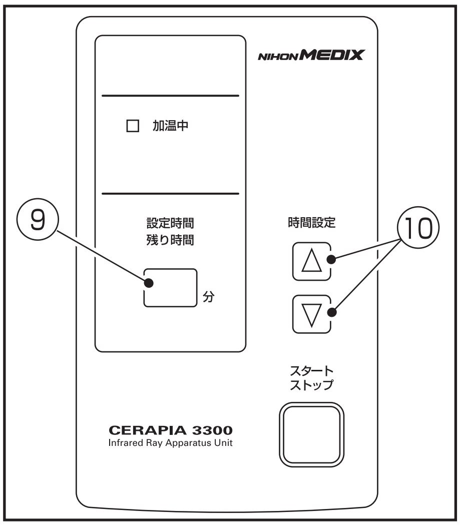
- 操作パネル①の治療時間表示⑨が点灯します。



2. 治療時間の設定

1）治療時間設定スイッチ⑩の△キーまたは▽キーを押します。

- 治療時間の初期値は15分です。
- 治療時間設定スイッチ⑩の△キーまたは▽キーを押すと治療時間表示⑨が増加または減少します。
- 設定範囲は1分単位で1〜30分です。



⚠ 注意

- 治療時間の設定は、治療時間中でも変更することができます。ただし、治療中に変更した時間は記憶されません。治療が終了すると治療スタート前に設定した治療時間に戻ります。

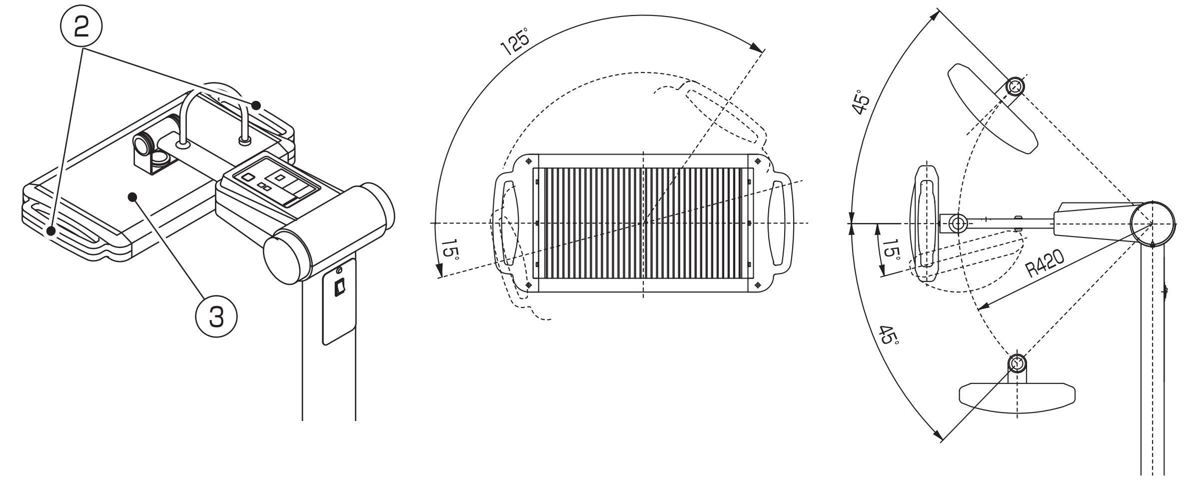
3. ヒータユニットの調整

1）ヒータユニット③のヒータ把手②を両手でつかみ、治療部位に合わせてヒータの高さや照射角度を調整します。(P.15「■ヒータ・アームの角度」参照)

⚠ 注意

- ヒータは照射部位より30cmを目安に離して調整してください。
- ヒータ内部に手を入れたり、ヒータガードおよびヒータの裏カバーに触れないでください。
- ヒータユニットは高温になりますので、照射角度を調整する場合は、必ず両手でヒータ把手を持ち調整してください。
- 関節部や可動部に手や指を挟まないように注意してください。

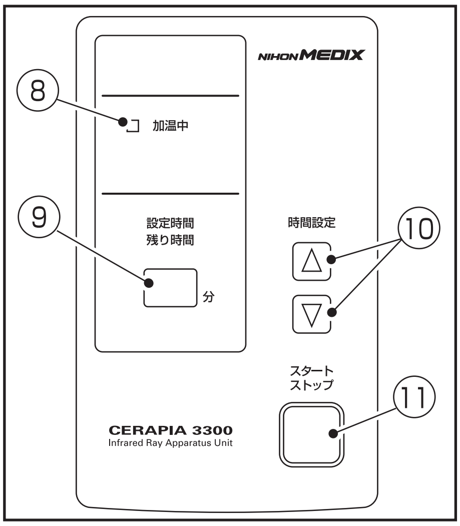
■ヒータ・アームの角度



4. 治療の開始

1）スタート／ストップスイッチ⑪を押します。

- 加温が始まり治療が開始します。
- 治療中は加温表示⑧が点灯、治療時間表示⑨が残時間を点滅表示します。
- 治療を強制終了する場合は、再度スタート／ストップスイッチ⑪を押します。終了音が鳴り、加温が止まります。治療時間は治療前の設定値に戻ります。



5. 治療の終了

1）設定した時間が経過すると終了音が鳴り、加温が止まり治療が終了します。

2）電源スイッチ⑤をOFF(○)にします。

6. 同じ条件で治療をする

P.14「3. ヒータユニットの調整」から操作を始めてください。

注意

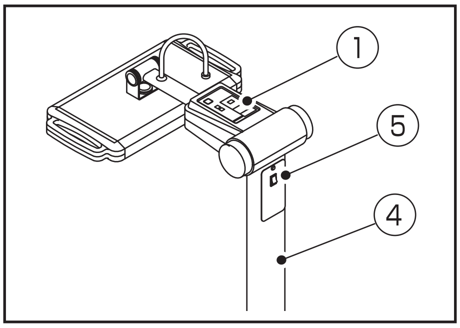
- 設定内容は記憶されています。次回の治療や次の日の治療が同じ条件であれば、再度設定する必要はありません。

その他の設定

1. 終了音の設定

終了音は「2回／秒」と「4回／秒」の2種類あります。

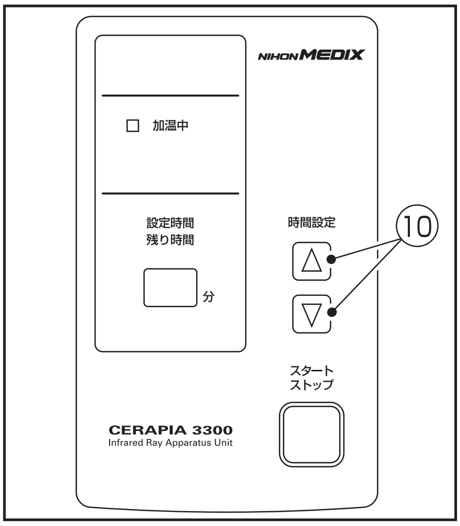
1）支柱④の裏側の電源スイッチ⑤をOFF(○)にします。



2）「4回／秒」に設定する場合は、治療時間設定スイッチ⑩の△キーを押しながら電源スイッチ⑤をON(－)にします。

「2回／秒」に設定する場合は、治療時間設定スイッチ⑩の▽キーを押しながら電源スイッチ⑤をON(－)にします。

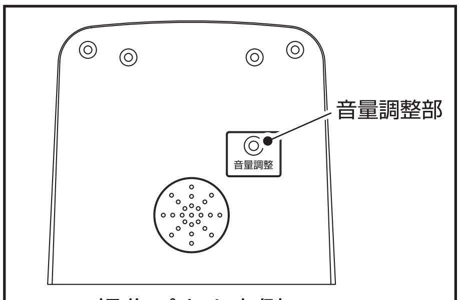
- 終了音の初期値は「2回／秒」です。



2. 音量の調整

1）操作パネル①の裏側にある音量調整部の穴に付属のドライバを差し込み、ドライバを回して調整します。

- ドライバを右に回すと音が大きくなり、左に回すと小さくなります。



操作パネル裏側

日常の保守と点検

1. 日常点検

装置の使用前には、次に示す内容を点検してください。

- **電源コードが確実に接続されているか**
  確実に接続されているか使用前に必ず確認してください。

- **電源コンセントと電源プラグは正しく接続されているか、発熱はしていないか**
  異常がみられた場合は使用を中止し、弊社支店・営業所またはお買い上げ店にご連絡ください。

- **電源コードのねじれ、劣化、断線はないか**
  異常がみられた場合は使用を中止し、弊社支店・営業所またはお買い上げ店にご連絡ください。

- **ヒータユニットの関節部にゆるみがないか**
  勝手に動いて位置がずれてしまう場合は使用を中止し、弊社支店・営業所またはお買い上げ店にご連絡ください。

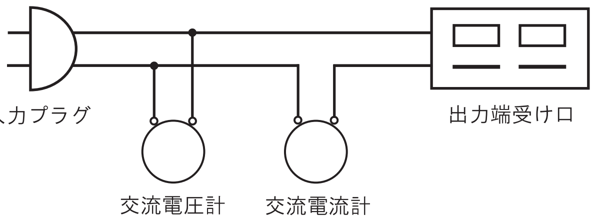
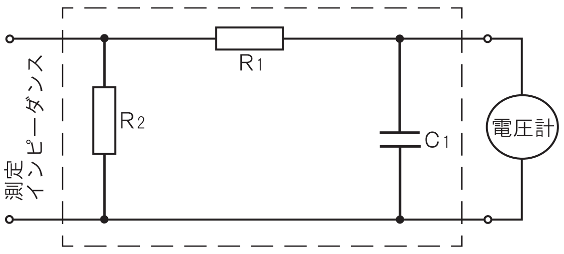
2. 保守点検（日本理学療法機器工業会自主基準による）

年1回、次に示す保守点検を行ってください。安全性と性能を保守し、QMSに準拠した品質の確保を図ることを目的とします。保守点検は原則として使用者において日常の医療を円滑に行うためのものですが、使用者が保守点検を行うことが出来ない場合に、当該修理区分の修理業許可を受けている修理業者または点検技能者が使用者の委託を受けてこれを行い、保守に関して万全を期するものであって、点検項目はこの場合における保守点検の基準を定めるものです。

⚠ 注意

- 点検に適用するものであり、修理を行うためのものではありません。
- 保守点検において不具合を発見した場合は、直ちにその使用を禁止しなければなりません。
- 点検の際、使用する測定器具は適正に校正されたものを使用してください。

2-1. 安全性の保守点検

点検項目	使用する測定器具	点検方法	ﾁｪｯｸ
入力電圧および入力電流	入力電力測定用ケーブル 交流電圧計 交流電流計	電源プラグにかかる電圧、および電流を測って入力を確かめてください。電源入力の＋10%以下であることを確かめてください。 ※ 治療器本体の外体ケースを開かずにこの点検を実施する場合は、下図のような点検器具を用い、その入力プラグを商用電源の給電端子に、また出力端受け口を本体の電源プラグに接続して点検を行ってください。 	
接地漏れ電流	JIS T 0601-1:2014の8.7.3に示す図12a)の測定器具	測定器具の入力端子を治療器の保護接地端子と接地点とに接続し、測定器具に接続した電圧計の読みから接地漏れ電流を計算した値が5mA以下であることを確かめてください。但し、この測定においては電源の極性を切替えて測定し、高い方の値を取るものとします。 ※ JIS T 0601-1：2014の8.7.3に示す図12a)の測定器具  R1：無誘導抵抗10kΩ±5% R2：無誘導抵抗 1kΩ±1% C1：容量 0.015μF±5% 電圧計：抵抗1MΩ以上、及び静電容量150pF以下	
外装漏れ電流	JIS T 0601-1:2014の8.7.3に示す図12a)の測定器具	測定器具の入力端子を治療器の外装金属各部と接地点とに接続し、電圧計の読みから計算した値が0.1mA以下であることを確かめてください。但し、この測定に際して保護接地端子は接地しておくものとします。	
絶縁抵抗	DC1000Vの絶縁抵抗計	各絶縁抵抗値が20MΩ以上であることを確かめます。 1.電源入力部と外装金属部間 2.電源の異極性間（電源スイッチOFFの状態で測定）	

2-2. 性能の保守点検

点検項目	使用する測定器具	点検方法	ﾁｪｯｸ
タイマ機能	ストップウォッチ	タイマを作動させてその正確さをストップウォッチで測定し、その値が22ページ「主な仕様」に定める通りであることを確かめます。また、タイムアップ時に治療器出力が連動して停止することを確かめます。	

2-3. 外観、表示、構造、付属品の保守点検および消耗品の交換

点検項目	使用する測定器具	点検方法	ﾁｪｯｸ
キズ、ワレ、サビ、付属品		目視点検により安全性と効能に支障のないことを確かめます。	
設置状況		設置場所が4ページ「2. 設置および設置場所に関する注意」に定める通りであることを確かめます。	
操作パネルの表示		目視点検により表示が読み難くなっていないことを確かめます。	
銘板の表示		目視点検により銘板が脱落していないことおよび読み難くなっていないことを確かめます。	
ツマミ、レバー等の操作性		目視点検と操作点検により所定の作動ができることを確かめます。	
電源コード、電源プラグ、ヒューズの状態	回路テスタ	目視点検により確かめた後、電源プラグの両極間に回路テスタを接続し、電源スイッチのON、OFF操作によりこれらの機能の良否を確かめます。	
その他の付属品の状態		目視点検、および触手点検により各部の状態を確かめます。	
ヒータユニットの状態		目視および出力点検の結果よりヒータユニットが正常な状態にあるかを確かめます。また、ヒータ管3本に色のばらつきが無いことを確かめます。	

2-4.記録と記録書の管理

全ての点検が終了したら所定の点検済シール（履歴シール）を貼付し、点検者において必ず次の事項を記録してください。

- 機種および型式
- 製造番号
- 点検年月日および点検終了の時間
- 次期点検予定年月日
- 使用施設者名および点検を行った場所
- 点検を確認した者の署名または捺印
- 点検者の氏名の記載、および署名または捺印
- 点検結果に関する事項
- 記録書は点検者において良識をもって保管し、一部を使用者に交付します。なお記録書は点検期間が総て終了した後も３年間保有してください。

3. 装置の清掃

装置が汚れたときは、次の方法で清掃してください。

- ほこりなどは、柔らかい乾いた布で拭いてください。
- 汚れなどは、柔らかい布に水もしくはぬるま湯で薄めた中性洗剤を湿らせ、良く絞ってから汚れを拭き取ってください。

> ⚠ 注意
>
> - 塗装のはがれや傷、変形の原因ともなりますので、ベンジンやシンナー、アルコールなど有機溶剤系の薬品で拭かないでください。
> - ヒータが熱い状態での清掃は行わないでください。
> - 中性洗剤を使用した後は、十分洗剤を取り除いてください。

4. ヒューズの交換

本体背面の電源ヒューズホルダ⑥に5A（φ6.4×30mm、NM)のヒューズを取り付けます。

1）電源スイッチ⑤をOFF(○)にします。

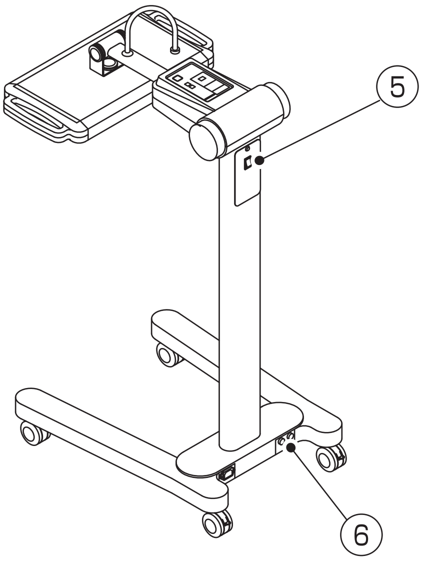
2）電源プラグを電源コンセントから外します。

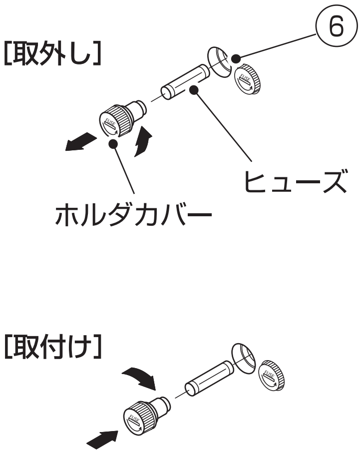
3）マイナスドライバを使用しヒューズホルダ⑥のカバーを回します。

4）中のヒューズを取り出し、新しいヒューズに交換します。

5）マイナスドライバを使用してヒューズホルダ⑥のカバーを取り付けます。

6）電源プラグを電源コンセントに差し込みます。





> ⚠ 注意
>
> - ヒューズを交換する場合は、感電事故防止のため、必ず電源スイッチをOFF(○)にし、電源コードを外してください。
> - ヒューズホルダのカバーを外すときは、必ずドライバなどを使用してください。

故障かなと思ったら

故障かなと思ったら、まず下記の事項を確認してください。処置を行っても症状の改善が見られない場合は、弊社支店・営業所またはお買い上げ店にご連絡ください。

症状	確認事項	処置
電源が入らない 表示が点灯しない	電源コードが正しく接続されていますか？	電源コードを電源コンセントに差し込んでください。
	電源ヒューズが断線していませんか？ ヒューズを取外し点検してください。（20ページ参照）	切れている場合は、電源ヒューズを交換してください。 （20ページ参照）
スタート／ストップスイッチを押しても、ヒータが暖まらない		現象を確認の上、弊社支店・営業所またはお買い上げ店にご連絡ください。
ヒータの温度が熱すぎる	照射部位にヒータを近づけすぎていませんか？	ヒータと照射部位の距離を調整してください。 処置を行っても症状の改善が見られない場合は、弊社支店・営業所またはお買い上げ店にご連絡ください。
終了音が大きいまたは小さい	音量を適切に調整していますか？	音量を調整してください。 （16ページ参照）

主な仕様

販売名	セラピア 3300
商品コード	PH－L3300E
一般的名称	赤外線治療器（JMDNコード：35147000）
分類	管理医療機器　特定保守管理医療機器
使用目的	身体の硬直、疼痛、又は炎症のある部位を温めて治療に用いる。
定格電源	AC100V
電源周波数	50/60Hz
電源入力	450VA
ヒータ定格出力	310W
寸法	550（W）×1635（H）×845（D）mm（可動時の最大寸法）
質量	17.0kg
ヒータ仕様	カーボンランプヒータ
中心波長	2.5～4.5μm
治療時間	1～30分（1分単位）
電撃保護形式	クラスⅠ機器
認証番号	218AIBZX00001000
電気的安全性	JIS T 0601-1：2014、JIS T 0601-2-203：2015 に適合
電磁両立性（EMC）	JIS T 0601-1-2：2012 に適合※1
耐用期間	8年（自社基準による）
使用環境	周囲温度10～40℃、相対湿度30～75%、気圧700～1060hPa

※1 EMC適合　CISPR11　グループ1　クラスB

クラスB：クラスB機器は、家庭用施設および家庭用目的に使用する建物に給電する低電圧電源に直接接続する施設での使用に適した機器である。

■付属品

電源コード……1本
電源ヒューズ（5A）……2本
ドライバ（終了音調整用）……1本

保証および修理について

- 保証書は、本製品に添付されています。必ず製品名・納入年月日等の記入事項、および内容をご確認の上、大切に保管してください。

- 保証の対象となる部分は、本体、導子（電極類）です。本体の保証期間はご購入から１年間（日本国内での使用に限る）で、導子（電極類）の保証期間はご購入より６ヶ月になります。正常な状態のもとで、保証期間内に万一故障した場合は、保証の規定に従って修理いたします。

- 下記の場合の修理は、保証期間中でも有償となります。
  - ・誤った使用法、誤操作、あるいは誤った修理・改造による故障損害の場合。
  - ・火災、地震、風水害、落雷、落下、その他の天災地変、公害、塩害、ガス害、異常電圧や指定外の電源使用などにより生じた故障損害の場合。
  - ・ご購入後の輸送、移動、落下、衝撃などにより生じた故障損害の場合。
  - ・消耗品および自然減耗品の補充。
  - ・その他弊社の責任と見なされない故障損害の場合。
  - ・保証書の紛失あるいは提示がない場合。

- 保証期間後の修理については、費用を別途ご請求させていただきます。
  修理費用は、技術料、部品代、出張費等で構成されています。
  - ・技術料：故障箇所の判定、修理、部品の交換、調整、点検などの作業にかかる費用です。
  - ・部品代：修理に使用した部品や補助材料の費用です。
  - ・出張費：ご依頼の場所へ、技術者を派遣する場合の費用です。

  サービスパーツの保有期間は８年になります。ただし、使用部品の生産中止などにより提供できないことがあります。

- 修理を依頼される時
  「故障かなと思ったら」を確認の上、不具合が解消されない場合には、弊社支店・営業所またはお買い上げ店まで、以下の内容をご連絡ください。
  - ・貴施設名、およびご担当者名
  - ・製品名・製造番号・購入年月日
  - ・故障または異常の詳細な内容、故障時の使用状況

- お客様の誤った操作に起因する損害については、当社は責任を負いかねます。

- お客様ご自身での修理は危険です。絶対に行わないでください。

補足事項

■廃棄について

この装置は、一般ごみ（家庭ごみ）として廃棄した場合、環境を破壊する恐れがありますので、必ず産業廃棄物として、地方自治体の条例・規則に従い、産業廃棄物取扱業者に処分を依頼してください。
このとき、産業廃棄物取扱業者からのマニフェストを必ず受取り保管してください。

株式会社日本メディックス

http://www.nihonmedix.co.jp

本社/柏工場	〒277-0922	千葉県柏市大島田2丁目5番地1	TEL 04-7193-2220(代) FAX 04-7193-3315

札幌営業所	〒007-0861	北海道札幌市東区伏古1条2丁目4-5 美津和ビル103号	TEL 011-787-1182(代) FAX 011-787-1183
仙台支店	〒984-0032	宮城県仙台市若林区荒井七丁目7番地-5	TEL 022-288-2955(代) FAX 022-288-2956
埼玉支店	〒362-0803	埼玉県北足立郡伊奈町大針469-5	TEL 048-723-1285(代) FAX 048-723-1286
東京支店	〒130-0021	東京都墨田区緑4丁目4番-12号 メゾンベール錦糸町	TEL 03-5638-5533(代) FAX 03-5638-5534
千葉支店	〒277-0922	千葉県柏市大島田2丁目5番地1	TEL 04-7193-4115(代) FAX 04-7193-4050
横浜支店	〒225-0024	神奈川県横浜市青葉区市ヶ尾町1803-4	TEL 045-979-2381(代) FAX 045-979-2380
名古屋支店	〒465-0054	愛知県名古屋市名東区高針台1丁目201番地	TEL 052-704-1616(代) FAX 052-704-1617
金沢出張所	〒920-0027	石川県金沢市駅西新町1丁目38番地18号	TEL 076-232-3802(代) FAX 052-704-1617
大阪支店	〒564-0044	大阪府吹田市南金田2丁目12-18	TEL 06-6369-1201(代) FAX 06-6369-2088
大阪支店京都分室	〒600-8385	京都府京都市下京区五坊大宮町80　新日勝ビル1階104	(TEL・FAXは大阪支店へおかけください)
神戸営業所	〒651-2131	兵庫県神戸市西区持子2-124	TEL 078-926-0626(代) FAX 078-926-0629
岡山出張所	〒700-0976	岡山県岡山市北区辰巳18-108　ラシェール1階	TEL 086-805-0233(代) FAX 086-805-0232
広島営業所	〒730-0802	広島県広島市中区本川町二丁目4番1号　1階	TEL 082-293-7211(代) FAX 082-293-7212
高松営業所	〒761-8071	香川県高松市伏石町2079-1	TEL 087-868-4323(代) FAX 087-868-4338
九州支店	〒811-1311	福岡県福岡市南区横手一丁目8番2号	TEL 092-571-8258(代) FAX 092-571-8259
鹿児島営業所	〒890-0046	鹿児島県鹿児島市西田3丁目26-19ﾌﾟﾛﾑﾅｰﾄﾞ西田1階	TEL 099-286-1081(代) FAX 099-286-1082
沖縄営業所	〒900-0016	沖縄県那覇市前島2-21-13　ふそうﾋﾞﾙﾃﾞｨﾝｸﾞ1階	TEL 098-988-0072(代) FAX 098-988-0083

CED1-ZC000D-14
ﾏ2009-003ⅩⅣ